

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①確かな学力の育成に努め、質の高い学びを実現し、生徒が自らの個性・能力を伸張する高い意識を持って学習するカリキュラム・マネジメントを進める。</p> <p>②国際理解教育の推進及びグローバル人材の育成を図り、持続可能な社会の創り手として学び続ける自立した学習者を育成する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等においては生徒が主体的に取り組み、生徒中心の行事となる取組を促進し、他者に影響を与え、学校や社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>①確かな学力の育成と質の高い学びを継続して実現していく。</p> <p>②生徒自らがグローバルな視点を持ち、持続可能な社会を作り出す意識を育めるような学びをICTと等のツールも活用し、教科横断で推進していく。</p> <p>③学校行事や部活動への積極的参画を通じた自己有用感の向上を図り、生徒主体の活動基盤の基礎を作るために部活動加入率を高めていく。</p>	<p>①資質・能力の向上とその発展を目指し、教科内及び教科横断で授業実践・授業改善を行う。</p> <p>②各科目等でテーマに沿った探究活動を推進し、生徒の向上心を育み、学びの振り返りをより高い目標に結びつけられるよう支援する</p> <p>③生徒自身が主体的に学校行事や部活動の運営を行なっているという実感を得る機会を増やす。ルールの見直しなどを通じて入部の門戸を広げる。</p>	<p>①教科会を中心に、教科横断で授業改善を進め、生徒の資質・能力の向上に努めることができたか。</p> <p>②ICT等のツールを活用しながら、生徒が主体的・対話的に探究学習をし、課題解決方法を考える学びを継続するサイクルづくりができたか。</p> <p>③部活動加入率の増加と、学校行事への主体的な参画する体制が確立できたか。</p>					
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの個性や実情に応じてそのニーズに応え、多様な可能性を延ばす支援体制の充実を図る。</p> <p>②困難を抱える生徒を支援につなぎ、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた支援体制の構築を図る。</p> <p>③規範意識を養い、安全・安心な学校生活を保障し、自尊感情や自己効力感を高め、自他を尊重する心を育み、ウェルビーイングの実現を目指す。</p>	<p>①生徒支援体制に重点を置く。生徒支援を教育相談や生徒指導を通じ活性化を図る。</p> <p>②困難の言語化、見える化を図る。生徒の背景にある困難に対し早期対応を目指す。</p> <p>③自尊感情を育成するため道徳的実践力を養う。安心・安全な学校生活を送るための規範意識を養う。</p>	<p>①教職員が一丸となって生徒の困り感に寄り添える体制を整える。生徒・保護者との信頼関係を築く。</p> <p>②SC・SSWと連携を図り生徒・保護者の支援を図る。サポートドックを活用し、困難を抱える生徒の早期発見に努める。</p> <p>③義務や責任を果たせる人格を育成し、互いの人格や権利を尊重する力を育む。</p>	<p>①生徒・保護者との信頼関係を築けたか。生徒・保護者に寄り添える体制は整えられたか。</p> <p>②SC・SSW・スクールメンターと連携ができたか。サポートドックを有効活用できたか。必要な時に外部機関と連携が図れたか。</p> <p>③人格や権利を守り道徳的規範意識を養えたか。自尊感情を育成できたか。問題行動を未然に防止できたか。</p>					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①予測不可能な時代の中でも、活躍することのできる人材の育成を図る。</p> <p>②生徒自らのキャリア形成を意識できる進路活動の充実を図り、より高い進路目標設定が行える指導・支援を推進するための体制を構築する。</p> <p>③将来の自分のキャリアに責任を持ち、生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤を培う。</p>	<p>①進学先・進学方法に関わらず共通して必要となる資質・能力の育成を図る。</p> <p>②生徒が自己理解や社会・学問分野への理解を段階的に深化させ、主体的に進路を選択できる基盤を育成する。</p> <p>③生徒自身が目標を設定・修正する機会を保障し、自己調整力や主体性を育成する。</p>	<p>①各教科と総合的な探究の時間等を相互に関連付け、汎用的能力の育成を図る。</p> <p>②各学年に応じた進路行事や探究活動等を計画し、生徒が進路を現実的かつ意欲的にとらえられる機会を充実させる。</p> <p>③学習目標や進路目標の設定、計画、振り返りを生徒自身が行うよう、支援・助言する。</p>	<p>①各教科と総合的な探究の時間等を効果的に関連付けることができたか。</p> <p>②各学年に応じた進路行事や探究活動等を適切に計画・実施することができたか。</p> <p>③学習目標や進路目標の設定、計画、振り返りを生徒自身が行うよう、支援・助言をすることができたか。</p>					
4	地域等との協働	<p>①地域・保護者等と連携・協働し、学校の教育力の向上を図るとともに、地域に親しまれる学校作りを進める。</p> <p>②コミュニティ・スクールの取組の推進により、地域の教育力の活用や産学協働体制の構築を図る。</p>	<p>①地域・保護者との双方向の交流を活性化し、相互理解に基づく開かれた学校づくりと教育力の向上を推進する。</p> <p>②地域の教育資源や外部ネットワークを効果的に活用し、生徒の学びの機会を拡充する。</p>	<p>①-1 学校行事における地域・保護者の参画・支援の機会を継続し、教育活動への理解を深める。</p> <p>①-2 地域行事における生徒の活動機会を拡充し、その活動を積極的にホームページやSNSで発信する。</p> <p>②近隣の大学や高等学校等のリソースを活用した交流や体験プログラムを実施し、学びの質を高める。</p>	<p>①-1 学校行事への地域・保護者等の参画・支援が継続できたか。</p> <p>①-2 地域行事への生徒の活動機会が増え、ホームページやSNSで発信できたか。</p> <p>②近隣の教育機関等との交流は体験プログラムが実施できたか。</p>					
5	学校管理 学校運営	<p>①校務におけるコンプライアンスの徹底と不祥事防止の徹底により、信頼に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>② 安心して快適な教育環境の整備のために、組織的・計画的な学校安全を推進し、激甚化・頻発化している自然災害や、事故・事件、犯罪などに備えて子どもたちが自らの安全を確保できる資質・能力を育成する。</p> <p>③働き方改革を一層促進するだけでなく、教師の個別最適な学びや協働的な学びを支える仕組みを構築し、教職員のウェルビーイングを図る。</p>	<p>①不祥事防止研修の充実と職場内の良好な雰囲気づくりに努め、不祥事防止の徹底を図る。</p> <p>②組織的・計画的に安心して快適な教育環境の整備に努める。自然災害や、事故・事件、犯罪などに備えて生徒たちが自らの安全を確保できる対応力を養う。</p> <p>③-1 業務の効率化を進め、教職員の時間外勤務の減少に努める。</p> <p>③-2 個々の教職員の希望と適正に十分に配慮した校内人事を行う。</p>	<p>①県の資料の活用等により不祥事防止研修を計画的に行うとともに、管理職と教職員との面談や個々の相談に速やかに対応する。</p> <p>②-1 防災訓練、防災講話、DIG訓練等を地域と連携を図りながら実施する。</p> <p>②-2 保健体育課、社会的リソース等と連携し、心肺蘇生法等を実施する。</p> <p>③-1 企画会議を中心に、各グループで業務の見直し、効率化を進める。</p> <p>③-2 教職員との日ごとのコミュニケーションや面談等を充実させ、教職員の意思を把握する。</p>	<p>①計画的な不祥事防止研修の実施と、教職員との面談や相談対応により、不祥事ゼロが実現できたか。</p> <p>②-1 地域等と連携した訓練・講話等を実施し、防災に備える体制を構築し確認できたか。</p> <p>②-2 心肺蘇生法を実施し、職員や生徒が実践的な方法を学ぶことができたか。</p> <p>③-1 各グループの業務の効率化が図られ、時間外勤務が減少したか。</p> <p>③-2 教職員の希望を尊重した校内人事により働きがいのある職場づくりができたか。</p>					